

## テノール・アリア「運命は恋する者に」K.209と「従いかしこみて」K.210 ——対応するオペラを調査する（その2）——

野口秀夫

### 1. はじめに

犬輔：前回は<sup>注1</sup>テノール・アリア「従いかしこみて Con ossequio, con rispetto」K.210が、どのオペラへの挿入／代替アリアなのかというテーマを設定しました。自筆譜に自筆で1775年5月と書かれていることから、その頃ザルツブルクに滞在していた旅回りのイタリア一座であるエミーリオ座が上演したオペラ・ブッファへの挿入／代替アリアではないかということでした。

鳥代：ニッコロ・ピッчинニのブッファ作品《うかつな男または幸運な賭博師》（台詞：G.ピエトロセリーニ）の第二幕第20場への挿入アリアとして作曲されたとする従来説があるのですが、そこで歌うのがティモーテオ役のバスであり、K.210がテノールのために書かれているのと矛盾することを指摘しました。

教授：そこでK.210を挿入／代替できる他のオペラ・ブッファを探したが該当作品が見つからないというのが前回の結果であった。時間も少なかったので、引き続き諸君たちへの宿題でしたが、その後ゆっくりと検討できたはずだ。今回はその有力候補を紹介してもらいたい。

### 2. 1775年にエミーリオ座がザルツブルクで上演したオペラ・ブッファの候補

鳥代：前回はK.210の歌詞の一部と共に語句が出てくるリブレットを先ず探し、初対面の登場人物が名刺代わりの「カタログの歌」を歌うことから賢人と思い込まれ、敬意の挨拶を受けるという設定を探しました。しかし、そのようなアプローチでは求めるブッファ作品は見つかりませんでしたので、今回は別の方法を探らざるをえません。

犬輔：その方法は、全く感覚的なのですが、一瞥して何となく気になった作品を捉えて、翻訳し、K.210が当てはまる部分があるかどうかを調べていくというやり方です。早速気になった作品が一つありましたので鳥代さんと二人で何とか報告してみようと思います。

教授：その作品は何で、そして何が気に入ったのかね。

犬輔：「気に入った」ではなく、「気になった」です。

鳥代：アントニオ・パロンバ Antonio Palomba (1705-69) 台本・ジョヴァンニ・パイジエッロ Giovanni Paisiello (1740-1816) 作曲の音楽滑稽劇《おしゃべり屋 Il Ciarlone》(1764 ボローニャ初演) という作品です<sup>注2</sup>。登場人物に“後見人 il Tuttore”と“後見されている孤児の娘 la Pupilla”がいるのが気になった理由です。

犬輔：かつて、ノットウルノ K.346 の歌詞の出典としてアンジェロ・ルンジ Angelo Lungi 台本・フランチェスコ・サヴェリーオ・ガルツィア Francesco Saverio Garzia (1730-1809) 作曲の三声の音楽笑劇《後見されている娘 La Pupilla》(1755 ローマ) (登場人物は3人) を調査<sup>注3</sup>したとき以来、後見人と被後見人(孤児の娘)の組み合わせが気になる存在だったのです。

鳥代：同名の3幕の喜劇『後見されている娘 La Pupilla』がカルロ・ゴルドーニにもあり、1757年にコメディア・デッラルテのために書かれています(登場人物は7人)<sup>注4</sup>。

犬輔：さらにジュゼッペ・アヴォッサ Giuseppe d' Avossa (1708-96) 作曲の《後見されている娘 La Pupilla》(1763 ナポリ) があります(登場人物は黙役を入れて8人)<sup>注5</sup>。

鳥代：《おしゃべり屋 Il Ciarlone》(1764 ボローニャ)は上記アヴォッサと基本的には同じ内容のリブレットと言ってよいと考えられます、それ以外のリブレットとは異なります。

教授：これらの複雑な状況についてはこう説明されている<sup>注6</sup>。「《おしゃべり屋 Il Ciarlone》の公演履歴は異常に複雑である。実際の初演は1763年にナポリで『後見されている娘 La Pupilla』という題名で行われ、その後、高イタリア語版(現在は《おしゃべり屋 Il Ciarlone》と呼ばれている)が1764年から1765年にかけていくつかの劇場で上演されたが、おそらく最初にファエンツァで上演された。1764年のボローニャ版は、パイジエッロのオペラのリストによく挙げられる。ヴィーン版のベースとなったと思われる1765年のヴェネツィアでの公演も重要な意味を持つようだ。アヴォッサとパイジエッロのヴァージョンが正確にどのようなものであったか、つまり、翻案と新しい作曲の境界がどの程度曖昧であったかについては、さらに明確にする必要がある。ヴィーン公演の正確な分類は、資料不足のため困難である(ヴィーン国立図書館の楽譜はヴィーンの台本と一致しない)。また、プラウンシュヴァイクの楽譜の起源もまだ明らかではない。つまりヴァージョンの違いについては深追いしないことだ。」

鳥代：そんな状況ですので、今回翻訳したのは初演版ではなく《おしゃべり屋 Il Ciarlone》(1767 マントヴァ)のリブレットです<sup>注7</sup>。テキストデータを入手しやすかったというのがその理由です。もちろん幾つか箇所で初演版との間で異同があることは承知の上です。

### 3. アントニオ・パロンバ作 音楽滑稽劇《おしゃべり屋 Il Ciarlone》

犬輔：翻訳は別ファイルにしました<sup>注8</sup>。粗筋を見ておきましょう。

鳥代：父親の遺言により、多額の遺産を相続した娘（チェレスティーナ）は、成人するまで後見人（ファヴォーニオ）をつけられ、成人になった暁にはその後見人と結婚するという定めになっていました。ところが、後見人がお人好しのため、財産目当てに後見人の親戚たちが居候して浪費し、財産管理人は不正を働きます。彼女はそれに気づき反撃を開始するのでした。そこにファルファローネ博士と称する人物が近づき、助言しますが、下心を見抜かれた博士は邪険に扱われ、侮辱されたと思い、反対勢力に加わります。

#### 3.1 テノール・アリア「従いかしこみて」K.210 の挿入先

犬輔：ぼくたちの検討結果によると K.210 の挿入可能と思われる候補箇所は、ずばり言いましょう、第一幕 第4場の最後です。

ATTO PRIMO SCENA IV. <i>Cortile.</i> <i>D. Favonio, e il Dottor Farfallone.</i>	第一幕 第4場 中庭。 <i>D. ファヴォーニオとファルファローネ博士。</i>
Dott. Sior Don Favonio mio veneratissimo.	<b>博士</b> 尊敬するドン・ファヴォーニオ卿。
Fav. Mio Signore, e Padrone offervandissimo.	<b>ファヴォーニオ</b> 私の主人、そして最も慈悲深い支援者よ。
Dott. Vi fo un milion d'inchini.	<b>博士</b> 私はあなたに百万回頭を下げます。
Fav. Dottore m' affaffini Con tante riverenze.	<b>ファヴォーニオ</b> 博士、あなたは私に何度もお辞儀をして挨拶してくれますね。
Dott. Fo il mio dover.	<b>博士</b> 私は義務を果たします。
Fav. (Oh che Dottor seccante!)	<b>ファヴォーニオ</b> (ああ、なんて迷惑な博士なんだ！)
Dott. Deggio servirla a nulla?	<b>博士</b> 何かお役に立つことがありますか？
Fav. V'ho da parlar della Pupilla mia.	<b>ファヴォーニオ</b> 私の被後見人についてですが。
Dott. V'ascolto, ma vi prego ad esser breve.	<b>博士</b> 聞いていますが、簡潔にお願いします。
Fav. Si Signor; mi spiego in brevis oratio.	<b>ファヴォーニオ</b> はい、では簡単に説明させていただきます。
Dott. Vi dico ciò, perch' ho molto che fare.	<b>博士</b> わたしはやるべきことがたくさんあるんです。
Fav. Io mi sbrigo. (Costui è il confidente Di Celestina; esso la può quietare.)	<b>ファヴォーニオ</b> 急ぎましょう。(彼はチェレスティーナの親友であり、彼女を落ち着かせることができる)。
Dott. (So quel, che passa colla sua Pupilla. Di lei mi vuol parlare. A me conviene Nulla seco concludere, se prima Non favello con quella.)	<b>博士</b> (彼の被後見人に何が起こるかは知っている。 彼は彼女について私と話したいという。まず彼女と話をしなければ、彼女と何かを結論付けるのは私にとって都合が悪いのだ)。
Fav. Sappia, Signor Dottore...	<b>ファヴォーニオ</b> あのね、博士さん…
Dott. Vi priego che tronchiate Le parole superflue, e diate al chiodo.	<b>博士</b> 余計な言葉を省いて 本題に入ってください。
Fav. Ella già fa...	<b>ファヴォーニオ</b> 彼女はすでに…
Dott. Io non so nulla affatto.	<b>博士</b> 全然分かりません。
Fav. Io dico ...	<b>ファヴォーニオ</b> 言いましょう…
Dott. Dico, dico, E mai non dite nulla.	<b>博士</b> 私が言っても、言っても、 あなたは何も言わない。
Fav. La Pupilla...	<b>ファヴォーニオ</b> 被後見人は…
Dott. Signor veneratissimo La brevità vi sia raccomodata.	<b>博士</b> 尊敬するご主人、 簡潔に述べることをお勧めいたします。
Fav. Signor veneratissimo Vi prego, e vi scongiuro a farvi muto.	<b>ファヴォーニオ</b> 尊敬すべきご主人、 どうか沈黙して頂きたくお願い申し上げます。

Dott.	<b>博士</b>
Spicciatevi.	急いで。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Lei sa qual sia l'amore, Che m'arde il cor per la Pupilla mia.	彼女は、私の被後見人に対する私の心を燃え上がらせる愛が何であるかを知っています。
Dott.	<b>博士</b>
So tutto, e vi compiango.	私はすべてを知り、あなたを哀れに思います。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Ma perche?	しかし、なぜ?
Dott.	<b>博士</b>
Perchè ho letto in mille Autori, Che Amore è un morbo pessimo.	なぜなら、私は何千人もの著者から、愛は恐ろしい病気であると学んだからです。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Al mondo è un morbo comune. E così...	それは世界中でよく見られる病気です。それで…
Dott.	<b>博士</b>
„Amor per lo tuo calle a morte vassi. L'Autor è Dalla Casa.	「愛よ、私はあなたの死への道を歩みます」。 著者はダッラ・カーザです。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Che ho da far della casa?	私はそのカーザ[家]と何の関係がありましょう? 聞いてください、それで…
Uditemi, e così...	
Dott.	<b>博士</b>
„Amore è cieco , e non può il vero scorgere. Jacopo Sanazzaro.	「愛は盲目であり、真実を見ることができない」。 ジャコポ・サンアツツアロです。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Si, Signor, sappia ch'io...	はい、承知しておりますが…
Dott.	<b>博士</b>
„Sopra un carro di fuoco un garzon crudo. Petrarca famoso.	「火の戦車に乗った未熟な少年」。 有名なペトラルカです。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
(Il diavol ti porti.) Volete udirmi, o no?	(悪魔があなたを連れて行くぞ)。 私の話を聞きたいですか、聞きたくないですか?
Dott.	<b>博士</b>
„Res est solliciti „Plena timoris amor. Disse Ovidio.	「愛とは落ち着きのない 恐怖に満ちたものである」オヴィディウス曰く。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
(O schiatta, o crepa glie la voglio dire.) Avete da sapere...	(死ぬか、くたばるかの違いだと彼に伝えたい)。 知つておくべきことは…
Dott.	<b>博士</b>
„Necessità d'Amor legge non ave. Il Cavalier Guarino.	「愛の必要性に法則はない」 騎士グアリーノ。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Che la Pupilla mia S'è fatta una superba, e mi maltratta...	被後見人が傲慢になって 私を虐待するようになった…
Dott.	<b>博士</b>
„Il crudo Amor di lagrime si pasce. Torquato Tasso...	「粗野な愛は涙で満たされる」 トルクアート・タッソ…
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
A lei dunque parlate...	それで彼女と話してください…
Dott.	<b>博士</b>
Di più il caro Signor veneratissimo...	さらに親愛なる最も尊敬すべき主人よ…
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Di più Signor Dottore seccantissimo...	さらに博士さん、とても迷惑です…
Dott.	<b>博士</b>
Il Mantuan Virgilio Nel quarto dell'Eneide Sclamò: <i>improbe Amor.</i>	『アエネイス』第4巻の マントヴァのウェルギリウスはこう叫びました。 アモールを騙せ
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
In mente devi imprimerle, Ch'è una vergogna massima Trattar così il Tutor.	後見人をこのように扱うのは 非常に恥ずべきことだということを 彼女に強く印象づけなければなりません。
Dott.	<b>博士</b>
E disse ancora Plauto:	そしてプラウトゥスは再びこう言った。
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Che s'io poi monto in furia.	すると私は激怒するのです。
Dott.	<b>博士</b>
<i>Amor, amara dat...</i>	愛、苦いもの…
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Lei dica, mio Signore...	彼女は言います、私の主人よ…
Dott.	<b>博士</b>
Catullo con Properzio...	カトゥルスとプロペルティウスは…
Fav.	<b>ファヴォーニオ</b>
Oh che ti venga il canchero.	ああ、恋の病に罹ってしまえばいい。

Dott. Disser lo stesso ancor... <b>Con ossequio, con rispetto</b> Io m'inchino e mi profondo A un sapiente si perfetto, Che l'ugual non v'e nel mondo. E l'eguale non verrà. (Per l'orgoglio, e l'ignoranza, Per la gran bestialità)	K.210	博士 彼らもまた同じことを言いました… <b>敬意と尊敬の念をもって</b> 深々とお辞儀をします、 世界に並ぶ者がいないほど 完璧な賢者の前では。 でも、もう同じことはないでしょう。 (傲慢と無知、 そして愚かさのため)
Fav. Voi siete un seccator.		（退場） ファヴォーニオ あなたは迷惑な人です。

教授：確かに博士は登場するとすぐに「あなたに百万回頭を下げます」と言っている。しかし、愛に関する文学作品の著者をカタログのように羅列披露するのは博士側であるから、物知りの賢者は博士自身ではないのかね。

鳥代：いいえ、賢者は博士でも、ファヴォーニオでもありません。ダッラ・カーザ、ジャコポ・サンナツィアロ、ペトラルカ、オヴィディウス、騎士グアリーノ、トルクアート・タッソ、マントヴァのウェルギリウス、プラウトゥス、カトゥルスとプロペルティウスなどリストアップされた著者たち（複数）のような人（単数）のことを賢者と言っているのです。

犬輔：そして、「もう同じことはないでしょう。（傲慢と無知、そして愚かさのため）」というのはファヴォーニオに対して、「もう私〔博士〕は賢者に対すると同じような尊敬と敬意の念を込めたお辞儀をあなたに対してすることはないでしょう（何故ならあなたが傲慢、無知、そして愚かだと分かったから）」ということだと思います。

鳥代：博士は被後見人チェレスティーナに財産維持のアドバイスを依頼されているため、その後見人であるファヴォーニオに挨拶しに来たという場面で、ファヴォーニオが頼りなく、おっとりした性格ですので、博士は与しやすい相手と考えたというアリアなのでしょう。

教授：ところでK.210はテノールのアリアだ。博士がテノールなのかどうかは確認したかね。

犬輔：はい、1767年マントヴァ上演における博士役はフランチエスコ・トレッリ氏 Il Sig. Francesco Torelliでした。この歌手はテノールで間違いません。

教授：諸君たちの報告を聞いていると矛盾はないようだ。音楽滑稽劇《おしゃべり屋》の第一幕 第4場をK.210が挿入されるオペラの候補として認めよう。

鳥代：さらに博士とチェレスティーナの会話は以下のように進みます。第一幕第7場です。

ATTO PRIMO SCENA VII. <i>Celestina, e poi il Dottore.</i>	第一幕 第7場 チェレスティーナ、そして博士。
Cel. Veggio che faccio troppo; ciò mi giova Per fargli prender sesto, e ch' apra gli occhi Contro quei ladri, che gli stanno intorno.	チェレスティーナ 私はやりすぎていることに気づいています。 これを彼〔ファヴォーニオ〕が自制心を取り戻し、周囲にいる泥棒に気付くのに役立てましょう。
Dott. (Ecco qui Celestina. Io la coltivo, Perch'è ricca di molto. Bramerei Di farla Sposa mia se lo potessi. Basta, tenterò l'acqua.)	博士 (チェレスティーナだ。私が育てた。 彼女はとても裕福なので、憧れる。 できれば、私の花嫁にしたい。 さあ、試してみよう)
Cel. (Ecco il Dottore. Questo è un uomo di garbo. Egli fu quello, Che in ciò m'ha consigliata.)	チェレスティーナ (博士だわ。 この人は優雅な人。彼こそが、 この件で私にアドバイスしてくれました)
Dott. (M'ha veduto.)	博士 (こっちを見ているぞ)
Cel. Signor Dottor, che fa?	チェレスティーナ 博士さん、何をしているんですか？
Dott. Veneratissima Mia Signora son qua per riverirvi.	博士 最も尊敬する 女主人様、あなたに敬意を表すために参りました。
Cel. Anzi...	チェレスティーナ とんでもない…
Dott. Ed a dedicarvi Tutti gli ossequi miei.	博士 そしてあなたに 私のすべての尊敬を捧げます。
Cel. Anzi...	チェレスティーナ とんでもない…
Dott. Veneratissima Mia Signora, i suoi cenni mi son legge.	博士 最も尊敬する 女主人様、あなたのご指示が私にとっての法です。

Cel.	チェレスティーナ
Anzi...	とんでもない…
Dott.	博士
Veneratissima	最も尊敬する
Mia Signora lei fa....	女主人様がご存知の通り…
Cel.	チェレスティーナ
Veneratissimo	最も尊敬すべき
Mio Signore s'ella vuol sol parlare, La lascio, e me ne vado.	閣下、もしただ話したいだけなら、 私は立ち去ります。
Dott.	博士
Ma voi...	でもあなたは…
Cel.	チェレスティーナ
Veneratissimo	最も尊敬すべき
Signor con tante ciarle Non concludete nulla.	閣下、そんなにおしゃべりしていては 何も達成できませんよ。
Dott.	博士
Ma voi...	でもあなたは…
Cel.	チェレスティーナ
Veneratissimo	最も尊敬すべき
Troppò avvezzo a ciarlare, dite sempre Un mondo di spropositi, e ancor d'errori, Vizio comun di tutti gli Dottori.	あなたは、おしゃべりに慣れすぎていて、いつも ナンセンスな世界、時に間違いも言います。 これはすべての博士に共通する悪癖です。
Dott.	博士
Coll'istesse armi mie mi fate guerra!	あなたは私と同じ武器で私に戦いを仕掛ける！
Cel.	チェレスティーナ
Uditemi, o men vado.	聞いて下さい。さもなくば私は行きます。
Dott.	博士
Da' labbri tuoi dipendo.	私はあなたの唇を頼りにしていますよ。
Cel.	チェレスティーナ
Io feci col Tutore...	私は後見人と…
Dott.	博士
Il mio consiglio...	私のアドバイスは…
Cel.	チェレスティーナ
Sì Signore, l'ho detto...	はい閣下、私は言いました…
Dott.	博士
Che comandar dovete in questa casa.	この家であなたは何を命令するのですか？
Cel.	チェレスティーナ
Sì Signor, l'ho...	はい閣下、私は…
Dott.	博士
V'avete	あなたは
Fatto dare le chiavi dei forzieri?	宝箱の鍵を手に入れましたか？
Cel.	チェレスティーナ
(Che ti caschi la lingua!)	(あなたの舌が抜けますように！)
Dott.	博士
Detto, che non volete più sposarlo?	それで、もう彼とは結婚したくないんですか？
Cel.	チェレスティーナ
Signor, buon dì...      ( <i>vuol partire.</i> )	閣下、さようなら… (帰ろうとする)
Dott.	博士
Aspettate; non parlo più.	待ってください。もうしゃべりません。
Cel.	チェレスティーナ
E state zitto.	そして静かにしてください。
Dott.	博士
Sto zitto.	私は静かです。
Ma lasciate ch'io dica	しかし、あと一言だけ
Un'altra paroletta, e poi parlate.	少し話しましょう。
Cel.	チェレスティーナ
Dite pur. (Oh che flemma!)	さあ言ってください。(ああ、なんと冷静な！)
Dott.	博士
Voglio saper s'avete a Don Favonio	ドン・ファヴォーニオにあなたは
Detto che non volete più sposarlo?	もう結婚したくないと言ったのですか？
Cel.	チェレスティーナ
Anzi gli ho detto ch'io sposar lo voglio.	実際は、彼と結婚したいと言いました。
Dott.	博士
Avete fatto male.	あなたは間違っています。
Cel.	チェレスティーナ
Perchè?	なぜ？
Dott.	博士
Perchè un sciocco come lui	彼のような愚か者は
Non merta il vostro amore.	あなたの愛に値しないからです。
Cel.	チェレスティーナ
Ei mi va a genio; e poi il Genitore	彼は私にぴったりです。そして親が
Così mi comandò nel Testamento.	遺言の中で私にそう命じたのです。

Dott.	<b>博士</b>
Ci sarebbe per voi miglior partito.	あなたにはもっと良い相手がいるはずです。
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Che partito?	どんな相手ですか？
Dott.	<b>博士</b>
Un Dottore amico mio	私の友人の博士で
V'ama	あなたを愛している。
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Ma il Dottore chi è?	でも、博士とは誰ですか？
Dott.	<b>博士</b>
Sono quell'io...	それは私…
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Voi... Come? A me? <i>(con isdegno, ed il Dottore si confonde.)</i>	あなたが… どうして？ 私を？ (軽蔑して、そして博士は混乱する)
Dott.	<b>博士</b>
Son io ch'ho l'incombenza	それについてあなたに話すのは私の責任です。
Di parlarvene. (Uh com'è inviperita!)	(ああ、なんと彼女は怒っていることか！)
Cel.	<b>チエレスティーナ。</b>
Voglio tosto saper come si chiama.	その人の名前が誰なのか本当に知りたいです。
Dott.	<b>博士</b>
Non vi prendete collera?	怒らないですか？
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Signor no; n'ho piacer. Ecco ch'io rido.	いいえ閣下。嬉しいです。私は笑っています。
Dott.	<b>博士</b>
Egli è il Dottor Far... fal...	彼はファル…ファッ…博士です。
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Come?	フルネームは？
Dott.	<b>博士</b>
Me ne son già dimenticato.	もう忘しました。
(Io mi vedo imbrogliato.)	(騙された気分だ)
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Se il nome non sapete,	名前がわからなくとも私にとっては
Perciò nulla m'importa. A nome mio	何も問題ではありません。
Ditegli, che un Dottore come lui	私の代わりに、その名のような博士を
Io lo tengo alla stalla.	廄舎に飼っていると伝えてください。
Dott.	<b>博士</b>
Gli Dottori?	博士達を？
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Così è; mai questa razza	そうですね。この種は
A genio non mando.	誰も満足させませんでした。
Dott.	<b>博士</b>
Gli Dottori?	博士達が？
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
L'ho detto.	そう言いました。
Sempre presso di me sono in ridicolo.	私はいつも馬鹿なことをします。
Dott.	<b>博士</b>
Gli Dottori?	博士達に？
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Si, Signore. A lui dite,	はい、閣下。もしその人が誰なのか分かったら、
Che se saprò chi è, dal mio Volante	私の棒で彼を殴らせると
Lo farò bastonare.	伝えてください。
Dott.	<b>博士</b>
(Buon per me che non sa ch'io sono quello.)	(幸運なことに、私がその人間だとは知らない)
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
Orsù, Signore, ora a parlar mi tócca.	さあ、閣下、今度は私が話す番です。
Dott.	<b>博士</b>
Ora v' ascolto... Ma con sua licenza	今私はあなたの話を聞いています… でも、許可を
Un'altra paroletta...	いただければ、もう一言…
Cel.	<b>チエレスティーナ</b>
(Oh sofferenza!)	(ああ、苦痛だ！)
Dott.	<b>博士</b>
Dirò al Dottore amico	友人の博士に
Il vostro senso espresso,	あなたが表現した感情を
Ma sappi che l'istesso	伝えますが、
Così risponderà:	彼は次のように答えるでしょう。
Chi non mi vuol, non merita	私を望まない者は
Affatto il nostro amore,	私たちの愛を受けるに値しないし、
Ed il mio sciolto core	私の自由な心は
Per simile disdetta	そのような不幸によって
Non se ne offenderà.	傷つけられることはない。
<i>(Celestina vuol parlare, ed il Dottore L'interrompe.)</i>	(チエレスティーナが話そうとすると、博士は彼女の話を遮る)

Un'altra paroletta Sa ognuno che le femmine Sempre al peggior s'appigliano, E il merto d'un Dottore Non puote una donnetta Giammai pregiudicar. Un'altra paroletta: (come sopra.) L'orgoglio in una femmina E' sempre disprezzabile, E non si rende amabile Colei, che si dilettia Gli amanti corbellar. (Parte dopo la replica presente.) Cel. Guarda che seccator! Non m'ha lasciato Dir quello, ch'io voleva. S'egli torna Voglio fare arrabbiare questo allocco... (Torna il Dottore.) Dott. Un'altra paroletta... Cel. Siete un sciocco. (Celestina parte con fretta, ed il Dottore la siegue.)	誰もが知っている もう一つの小さな格言は、 女性はいつも最悪のものを 好むということ。 そして女性が博士の価値を 決して損なうことはできないということです。 もう一つの小さな格言は：（上記と同じ） 女性の高慢さは 常に卑劣であり、 恋人をからかうことを 喜ぶ女性は 愛すべきものではありません。 (この繰り返しの後に退場) チエレスティーナ この迷惑なこと！ 彼は私が言いたいことを 言わせてくれなかつた。もし彼が戻ってきたら、 この馬鹿を怒らせたい… (博士が戻ってくる) 博士 もう一つの小さな格言は… チエレスティーナ あなたは愚か者です。 (チエレスティーナは急いで立ち去り、 博士も後を追う)
--	--

犬輔：博士は諦めたかのとき、「後見人と被後見人の間に不和を引き起こすことで、いつか彼女を妻にして彼女の莫大な富を所有できると期待する」（第二幕 第3場）という目的でしつこくチエレスティーナに言い寄っていたんです。

### 3.2 テノール・アリア「運命は恋する者に」K.209 の挿入先

鳥代：教授、今回の宿題で検討したのは K.210 だけではありません。テノール・アリア「運命は恋する者に Si mostra la sorte」K.209 の挿入先も検討しました。

教授：K.210 で終わりではなかったのだね。それは興味深い。聞かせてもらおうではないか。

犬輔：K.209 は自筆譜にレーオポルトの筆跡で「75.5.19、ザルツブルク」と書かれており、K.210 と同じ頃に作曲されたと考えられます。

鳥代：私たちはむしろ同じオペラのための挿入曲として作曲されたのではないかという仮定のもとに、再び音楽滑稽劇《おしゃべり屋》を調査しました。

犬輔：第二幕 第4場では三人が会話し、博士はファヴォーニオの妹のイサベッラと結婚できると水を向けられます。まんざらでもない博士の自惚れの場面となります。なお、ファルフアローネという名前の意味するところは「大きな蝶々」、転じて「漁色家」ですね。「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」の歌詞にもありました<sup>注9</sup>。

ATTO SECONDO SCENA IV. D. Favonio, e detti.	第二幕 第4場 D. ファヴォーニオ、承前 博士 D. ファヴォーニオさん、 あなたは妹 [イサベッラ] さんが帰国すべきだと 決心したのではないですか？ (大胆に「はい」と言いましょう) (ゆっくりと) ファヴォーニオ それは本当です。 [中略] チエレスティーナ あなたは何について話しているのですか？ 博士 私が彼に代わって話しましょうか？ お話します。 (D. ファヴォーニオに) 少し前に彼はこう言いました。(チエレスティーナに) 「ファルフアローネ博士、 私の妹がすぐに戻ってくるようにしてください」。 ファヴォーニオ まさにその通りです。そして私は彼女を ルイージと結婚させたいのです… 博士 いやいや、 だからお嬢さんは喜んでいないんです。
Dott. Signor D. Favonio, non è egli vero, Che avete risoluto onninemamente, Che la vostra Sorella torni in casa? (Dite sì con ardire.) piano al medesimo. Fav. E' ver. [...] Cel. Cosa parli fra te? Dott. Vuol ch'io parli per esso? Parlerò. a D. Favonio. Poc'anzi disse a me queste parole: a Celest. Dottore Farfallone fate in modo, Che qui sen rieda tosto mia Sorella. Fav. Così sta per l'appunto; e con Luigi La voglio maritar... Dott. No, no, per questo La Signorina non se ne contenta.	

Cel. Impostore, t'intendo. Tu vorresti Sposarti ad Isabella.	チエレスティーナ 詐欺師さん、聞こえますよ。 あなたはイザベラと結婚したいと思っています。
Fav. Qual novità! Sposare mia Sorella?	ファヴォーニオ それはニュースだ！ 私の妹と結婚しますか？
Cel. Per venire qua dentro a comandare.	チエレスティーナ ここに来て指揮を執る。
Fav. E per fare, e disfare?	ファヴォーニオ そして、実行し、元に戻すには？
Cel. Dottor malizioso!	チエレスティーナ いたずらな博士！
Fav. Dottor vituperoso.	ファヴォーニオ 博士は悪者扱いされる。
Dott. Piano non tanta furia. Date all'armi Senza alcun fondamento. Io son seguace Di Minerva, e disprezzo di Cupido L'effemminate faci. Pur se mai Dovrà Amore allignar nel petto mio. Di peregrina face il bel splendore Solo colei accenderà un Dottore.	博士 ゆっくり、そんなに速くなく。 何の根拠もなく武器を取る。 私はミネルヴァの信奉者であり、 キューピッドの女々しい松明を軽蔑しています。 たとえ愛が私の胸に根づいたとしても。 巡礼者の顔の美しい輝きだけが 博士を照らすでしょう。
Se qualche bella mi vuole per sposo; Sappia, che in primis io sono Dottore, Son virtuoso, bel parlatore, Buon Matematico, meglio Filososo, Poeta lirico, bravo Oratore, Gran Ballerino, suono il Violino, Canto di Musica sul Mandolino, Sono il Prototipo dell'i Caffè, Il meglio intingolo del conversar.	もしある美しい娘が私を夫として望んだら； まず、第一に私は博士であり、 徳の高い人であり、優れた話し手であり、 優れた数学者であり、さらに哲学者であり、 抒情詩人であり、優れた弁論家であり、 偉大な舞踏家であり、ヴァイオリンを弾き、 マンドリンで音楽を歌い、 カフェの原型、最高の会話の達人であることを 知っておいてください。
Stando al Teatro nel palco, o in sedia, Benchè io non senta mai la Commedia, E mi diverta sempre a ciarlar: Pur senza intendere parole, e Musica, Senza aver letto nè men libretto, Ho la grand'arte di criticar. <i>parte.</i>	劇場のボックス席や椅子に座っていても、 コメディを聞くことはなく、 いつもおしゃべりを楽しんでいます。 言葉や音楽を理解していないなくても、 台本さえ読んでいなくても、私は批評するという 素晴らしい技術を持っています。 (退場)

犬輔：しかし、イザベッラはルイージと相思相愛なのでした。一方チエレスティーナは傲慢に振る舞って、武器で居候を排除するキャラクターと、優しく振る舞って心を引き止めるキャラクターを交互に演じます。そしてスペインからの婦人に変装して財産を保全するように皆を仕向けるのです。

鳥代：K.209を聴くとわたしには海千山千の博士のアリアではなく、ドン・オッターヴィオのような若者の歌う憧れのアリアではないか聴き取りました。このオペラに出てくる若者といえば…

犬輔：ルイージですね。

教授：その役はテノールなのかどうか。

鳥代：マントヴァ上演のリブレットによればルイージ役はアントニオ・ソラーリ氏 Il Sig. Antonio Solariで、テノール歌手でした。

教授：では、どの場面に挿入するのが適切かね。

鳥代：はい、第二幕第8場です。

ATTO SECONDO SCENA VIII. <i>Il Dottore, Isabella, e detti.</i>	第二幕 第8場 博士、イザベッラ、承前
Dott. Mia riverita Signora Isabella, Oh quanto volontier qui vi riveggio! Isab. So qual è la bontà, che per me avete. Lui. [Isabella, e il Dottore!] Chec. [Il Dottore si fa ch'è già per noi.] Dott. Ho parlato poc'anzi      ( <i>a Isabella.</i> ) Di voi con Don Favonio.	博士 尊敬するイザベッラ婦人、 またここでお会いできて本当に嬉しい！ イザベッラ あなたが私に優しい気持ちなのを知っています。 ルイージ (イザベッラと博士だ！) ケッコ (博士はすでに私たちのところにいる) 博士 少し前にあなたのことを (イザベッラに) ドン・ファヴォーニオに話しました。

Isab.	イザベッラ
Di me?	私のことを？
Dott.	博士
Certo: v'ho chiesta per consorte, E lui me n'ha già fatta la promessa.	もちろんです。私はあなたを妻として頼み、 彼はすでに私に約束してくれました。
Lui. (Che ascolto mai!)	ルイージ (一体何を聞いているんだろう！)
Chec. (Come può esser questo!)	ケッコ (こんなことがあるのか！)
Isab.	イザベッラ
Non credo...	信じられない…
Dott.	博士
Sì, credetelo. (il Dottor l'interrompe.)	はい、信じてください。 (彼女を遮って)
Tant'è mia riverita	その通りなのです、
Signora Isabella. Egli è vero però	私の尊敬するイザベッラ様。
Che il Signor Don Favonio	しかしながら、ドン・ファヴォーニオ氏が
S'ha riferbato di parlare a voi	あなたの同意を得てあなたと話す権利を
Per il vostro consenso.	留保していることは事実です。
Isab.	イザベッラ
Dunque...	それで…
Dott.	博士
Ma io sto certo,	でも、きっと
Che voi glie lo darete...	彼に同意してくれますね…
Isab.	イザベッラ
L'assenso mio...	私の同意は…
Dott.	博士
Senz'altro, o mia Signora.	はい、女主人様。
Lo leggo in quei begli occhi	私にとって恒星である
Ridenti, che per me son stelle fisse.	あの美しい笑顔の瞳でそれを読みました。
Lui.	ルイージ
[Moro di gelosía! Senti, è sicuro (a Checco.)	(嫉妬死しそうだ！ ほら、彼は (ケッコに)
Del consenso di lei.]	彼女の同意を確信している)
Chec.	ケッコ
[Se questo è vero io più non credo a Donne.]	(これが本当なら、私はもう女性たちを信じない)
Dott.	博士
Sì, v'intendo. Dirmi volete ch'io	はい、分かりました。
Or vada a Don Favonio, e sbrigar facci	今からドン・ファヴォーニオのところに行って
Il nostro Sposalizio?	結婚式の準備をしましょうか？
Per obbedirvi volo a precipizio. (parte in fretta.)	あなたに従って急いで参ります。(すぐに立ち去る)
Isab.	イザベッラ
Che matto! E qui Luigi...	馬鹿げています！ そしてルイージがここに…
Lui.	ルイージ
Adunque tu il Dottore sposerai	あなたは私の愛に誓った信念に反して
Contro la fe, che all'amor mio giurasti?	博士と結婚するつもりですか？
Isab.	イザベッラ
Quai rimproveri acerbi!	何という痛烈な非難でしょう！
Lui.	ルイージ
Se il Dottore	博士を拒否したかったのなら、
Tu ricusar volevi,	私に約束したことを博士に
Ch'eri promessa a me dirgli dovevi.	伝えるべきだった。
Ma perchè sei volubile, e sleale,	しかし、あなたは気まぐれで不誠実であるため、
Col silenzio le fiamme sue gradisti,	彼の炎を黙って受け入れ、
E spergiura, e infedele mi tradisti.	偽証し不誠実に私を裏切ったのです。
Si mostra la sorte propizia all'amante che prova costante ardire in amor.	好意的な運命は 恋愛において 常に勇気を示す恋人〔女性〕に、 姿を現わす。
Ma sempre nemica e pronta all'offese distrugge l'imprese d'un timido cor.	だが、〔好意的な運命は〕いつも 侮辱に対して敵対的で、 準備万端であり、 曖昧な心の企てを破壊する。
	K.209

犬輔：第1節はルイージが恋人 la amante すなわちイザベッラに博士を拒否する勇気を持ってほしかったと歌い、第2節はイザベッラの「曖昧な心の企て=浮気」を侮辱と捉え、好意的な運命がその企てを破壊してくれるだろうと歌っているんです。

鳥代：K.209は運命任せで弱気なのね。でも希望を捨ててはいません。

教授：それはともかく、K.210と同様 K.209もオペラ・ブッファへの挿入アリアだと考えているのだね。

鳥代：いいえ、K.209は代替アリアです。つまりこの第二幕第8場におけるルイージのレチタティーヴォの後ろにはすでにアリアがあつたのです。例えば1764ボローニャ版は以下のとおりイザベッラに皮肉で怒りをぶちまけています。

Lui. Se il Dottore Tu ricusar volevi, Ch'eri promessa a me dirgli dovevi. Ma perchè sei volubile, e sleale, Col silenzio le fiamme sue gradisti, E spergiura, e infedele mi tradisti.  Io non so dir se sei Piu lusinghiera, o ingrata; Sotto un bel volto, o Dei, Celi la più spietata Barbara crudeltà. (parte.)	ルイージ 博士を拒否したかったのなら、 私に約束したことを博士に 伝えるべきだった。 しかし、あなたは気まぐれで不誠実であるため、 彼の炎を黙って受け入れ、 偽証し不誠実に私を裏切ったのです。  あなたがお世辞を言うのか、 恩知らずなのか、私には分かりません。 ああ神よ、あなたは美しい顔の下に、 最も容赦のない野蛮な 残酷さを隠しています。 (退場)
--	---

犬輔：1765 ウルビーノ版<sup>注10</sup>では次のとおりアリアに気丈な第1節が追加されています。

Lui. Se il Dottore Tu ricusar volevi, Ch'eri promessa a me dirgli dovevi. Ma perchè sei volubile, e sleale, Col silenzio le fiamme sue gradisti, E spergiura, e infedele mi tradisti.  Se in seno ancor mi resta, Un barbaro tormento, Se i totti miei io sento Saprò ben io parlar.  Io non so dir se sei Piu lusinghiera, o ingrata; Sotto un bel volto, o Dei, Celi la più spietata Barbara crudeltà. (parte.)	ルイージ 博士を拒否したかったのなら、 私に約束したことを博士に 伝えるべきだった。 しかし、あなたは気まぐれで不誠実であるため、 彼の炎を黙って受け入れ、 偽証し不誠実に私を裏切ったのです。  もし野蛮な苦しみが まだ私の胸の中に残っていても、 もし私が悲しみを感じていても、 私は上手に話す方法を知るでしょう。  あなたがお世辞を言うのか、 恩知らずなのか、私には分かりません。 ああ神よ、あなたは美しい顔の下に、 最も容赦のない野蛮な 残酷さを隠しています。 (退場)
--	---

鳥代：わたしたちが参照してきた 1767 マントヴァ版では諦めのアリアとなっています。

Lui. Se il Dottore Tu ricusar volevi, Ch'eri promessa a me dirgli dovevi. Ma perchè sei volubile, e sleale, Col silenzio le fiamme sue gradisti, E spergiura, e infedele mi tradisti.  Parto crudel se vuoi, M'involo agli occhi tuoi, Vado a morir d'affanno Lungi ben mio da te. (parte.)	ルイージ 博士を拒否したかったのなら、 私に約束したことを博士に 伝えるべきだった。 しかし、あなたは気まぐれで不誠実であるため、 彼の炎を黙って受け入れ、 偽証し不誠実に私を裏切ったのです。  あなたが望むなら、私は残酷なまま去り、 あなたの目から飛び立ち、 愛しいあなたから遠く離れて 苦しみ死んでいきます。 (退場)
--	---

犬輔：思うにルイージのこの状況にピッタリのアリアを作曲するのが先人たちにとって難しかったということになるのでしょうか。モーツアルトが参照したとすればどの版のリブレットであったのか不明ですが、代替アリアを試みた理由は先人のアリアが不出来だと思ったからでしょう。

鳥代：K.209 がオペラ・ブッファ向けとしては聴かせどころのある曲となっているのはモーツアルトが勝負に出たからと言えるでしょうか。

犬輔：ではオペラの最後の場面を見ておきましょう。

SCENA ULTIMA. Tutti.	最後の場面 全員。
Isab. Celestina son pronta a darti il tuo, Ed andrò via se vuoi. Lui. Celestina ti cedo i miei poderi, Per soddisfarti il credito, ch'hai meco, Chec. Io, che niente non ho per dare a voi Quel compenso, che vuole la ragione, Da me steffo men vado alla prigione. Cel. Non son tanto tiranna Quanto voi mi credeete, Io solo volli Far valer la ragion, che m' assisteva. Di far male a nessun io non m'intendo. Dott. Oh generosa!	イザベッラ チェレスティーナ、私はあなたにあなたの財産をお返します。お望みなら、私も立ち去ります。 ルイージ チェレスティーナ、私はあなたに私の財産を差し上げ、私が負っている借金を返済します。 ケッコ 理性が要求する補償を あなたに与えることができない私は、 一人で牢獄に行きます。 チェレスティーナ 私はあなた方が思っているほど 暴君ではありません。ただ私を支えてくれた 理性を主張したかったです。 誰かを傷つけるつもりはありません。 博士 ああ、寛大な方！

Giu. Oh grande! Cel. Voglio ancora, Per far compita l'allegrezza insolidum, Che Luigi si sposi ad Isabella, Ed il Dottore, a Giulia. Lui. Oh me felice! Isab. Oh lietissimo giorno! Dott. Giulia accetti la mano, ed il mio amore. Giul. Vi dono unito colla mano il core. Cel. E voi Signor Dottore ora imparate, Che se le vostre idee Non ebber quell'effetto, che bramaste, Ne fu sola cagione L'esser voi solennissimo Ciarlone. Tutti. Viva viva il gran Ciarlone, Che con suoi vani ragiri Il Tuttore, e la Pupilla Fece alfine trionfar.	ジュリア ああ、素晴らしい！ チエレスティーナ また、連帶の喜びを完結させるために、 ルイージはイザベッラと、 博士はジュリアと 結婚してほしいのです。 ルイージ ああ、私は幸せ者だ！ イザベッラ ああ、この上なく幸せな日！ 博士 ジュリアは私の手と愛を受け入れます。 ジュリア 手と共に、私の心をあなたに捧げます。 チエレスティーナ そして、博士、もしあなたの考えが 望んだ効果をもたらさなかったとしても、 それはあなたが非常に厳肅な おしゃべり屋だったからに他ならないことを、 あなたは今や悟ったのです。 全員 偉大なおしゃべり屋よ、 その軽薄な策略によって、 ついに後見人と被後見人を 勝利に導いた、万歳。
<i>Fine del Dramma.</i>	ドラマの終わり。

鳥代：ルイージはイザベッラと元の鞘に納まったのですね。

犬輔：おしゃべり屋とは博士のことでした。博士は結局ファヴォーニオの親戚のジュリアと結ばれて、めでたしめでたし。博士 Dottore は狂言回しだったのです。

#### 4.まとめ

鳥代：テノール・アリア「従いかしこみて」K.210 がニッコロ・ピッчинニのブッファ作品《うかつな男または幸運な賭博師》への挿入アリアであるという従來說はテノールのアリアであることと矛盾するため成立しません。そこでアントニオ・パロンバ台本・ジョヴァンニ・パイジエッロ作曲の音楽滑稽劇《おしゃべり屋》の第一幕第4場の博士が歌う挿入アリアに相当するのではないかという案を提起しました。

犬輔：テノール・アリア「運命は恋する者に」K.209 が K.210 と同じオペラへの挿入／代替アリアであるという従來說は根拠のあるものではありませんでしたが、偶然にも同じ音楽滑稽劇《おしゃべり屋》の第二幕第8場のルイージのための代替アリアとする案がピッタリであることを確認できました。

教授：モーツアルトが二人のテノール歌手のために挿入／代替アリアを一曲ずつ作曲したという前例はないが、かと言って全くあり得ないことではない。面白くて価値ある議論だった。諸君たちには、さらに研究を進めることを期待する。

注1：野口秀夫：テノール・アリア「従いかしこみて」K.210 —— 対応するオペラを調査する（その1）——、神戸モーツアルト研究会 第322回例会 [∞](#)

注2：Il ciarlane. Dramma giocoso per musica di Antonio Palomba napoletano da rappresentarsi nel Teatro Marsigli Rossi nella corrente primavera dell'anno 1764. Dedicato alle nobilissime [...] Dame di Bologna. - In Bologna : per Ferdinando Pisarri, [1764], Sartori 1990 05544 [∞](#)

注3：野口秀夫：モーツアルトのノットゥルノ K.346(439a) & K.439 の見出された台本作者たち、神戸モーツアルト研究会 第276回例会 [∞](#)

注4：Goldoni, Carlo (1757). La pupilla [∞](#)

注5：La pupilla. Commedia per musica di Antonio Palomba napolitano da rappresentarsi nel Teatro de' Fiorentini nel carnevale di quest'anno 1763. - In Napoli : per Vincenzo Mazzola-Vocola, 1763, Sartori 1990 19337 [∞](#)

注6：Opera buffa in Wien (1763–1782), FWF – Forschungprojekt, Oper: Il ciarlane [∞](#)

注7：Il ciarlane. Dramma giocoso per musica di Antonio Palomba napoletano da rappresentarsi nel Regio-Ducal Teatro Vecchio di Mantova il carnovale dell'anno 1767. Dedicato al merito [...] delle nobilissime dame di detta città. - Mantova: erede di Alberto Pazzoni, [1767], Sartori 1990 05554 [∞](#)

注8：音楽滑稽劇《おしゃべり屋》ナボリ出身アントニオ・パロンバ作、マントヴァ王立公爵劇場、1767 年のカーニバルにて上演 [∞](#)

注9：野口秀夫：『もう飛ぶまいぞこの蝶々』を例に日本語歌詞を考える、神戸モーツアルト研究会 第254回例会 [∞](#)

注10：Il ciarlane. Dramma giocoso per musica di Antonio Palomba napoletano da rappresentarsi nel Teatro de' nobili signori Pascolini d'Urbino nel carnevale dell'anno 1765. Dedicato al [...] signori Accademici Pascolini. - Urbino : Stamperia Camerale, 1765. Sartori 1990 05549 [∞](#)

(作成：2025年5月27日、改訂：2025年10月4日)